

2006年度 代表事業①

事業名

1月度第一例会「新年例会」

～新たな歴史への始まり～

委員会

例会管理委員会

委員長： 芦沢 玲欧奈

副委員長： 杉山 輝光

副委員長： 杉山 喜志雄

幹事： 望月 秀俊



事業趣旨要約

「発信」します。新たな歴史の1ページを！
「交流」します。まちを創っていく仲間として！

これらのキーワードを基とし、JCIを支援頂いている全ての方々に「おもてなしの心」を感じて頂き、笑顔と思いやりがある「あたたかいC」として一年のスタートを切るにふさわしい例会の場にする。

背景

2003年4月に誕生し、2005年より政令指定都市として歩み始めた静岡市。

新しい静岡市のまちづくりを考え新生静岡青年会議所がスタートする。「静岡青年会議所の基本計画」、「新たなまち静岡の発見と交流」というそれぞれの意図にメリハリを持たせ、対内外に向けて静岡青年会議所を強く発信していく。

効果

- ・2006年度「基本計画」を映像化し、上映することにより、静岡青年会議所の基本計画をより深く理解して頂く事が出来る。
- ・ステージ上の様子や会場内をスクリーンに映し出すことにより会場全体の一体感を醸成することができる。
- ・各報道関係にPRすることにより新設静岡青年会議所をアピールすることができる。

例会の流れ・目的

本例会を2部構成にする

【第1部～発信～】

- 1プロローグ
- ・静岡青年会議所の基本計画を音や映像で視覚化することにより、来場された方々に新しい静岡青年会議所を発信する。
- 2理事長所信表明
- ・15分間という貴重な時間を使い理事長に語って頂くことにより、2006年度の方向性を来場された方々に知って頂く。

3役員紹介

・役員を紹介することにより、2006年度の静岡青年会議所を発信する。2006年度スローガン発表 ～新たな歴史のスタートに 挑もう夢あるまちづくり 創ろう未来の静岡～息の合ったスローガン発表を行うことにより、新たな静岡青年会議所の期待を感じて頂くと共に2006年度の方向性を来場された方々に知って頂く。

4来賓祝辞 静岡市長 小嶋善吉様

5謝辞 静岡青年会議所 理事長 鈴木秀幸理事長

【第2部～交流～】

1懇親会

- ・歓談の時間を使い来場された方々と親睦を深める。
- ・新静岡青年会議所エリアの各種特産品を紹介・提供することにより来場された方々に新しい静岡青年会議所を再認識して頂く。

2謝辞 静岡青年会議所 理事長 鈴木秀幸理事長

【メンバー新年会】

1現役メンバーのみの新年会(懇親会)を開催

- ・メンバー同士の絆の構築を目的として開催した。まだ顔を知らないメンバーや、個々が抱える不安感や緊張感がある中、お互いが語らえる場を設けたことで更なるLOMの一体感を醸成につながった。

達成検証

事業目的に達した点：

- ・「静岡青年会議所の基本計画」、「新たなまち静岡の発見と交流」という意図を対内外に向けて静岡青年会議所を強く発信することができた。

所見

新しい静岡青年会議所として初めての例会設営を行うことにより、巨大LOMとしての運営の大変さを痛感致しました。
今後は例会担当委員会として全例会に携わりLOMの活性化の強化を重点に委員会として行動していきます。

目的

・意義・目的をしっかりと共有する事で今後の活動に意欲をもたらす。

・「どうかい号」事業を通じて得た静岡JCIメンバーの感謝、成長を促し思いやりと感謝というお互いの気持ちを理解する事で「利他の心」を養う強い結束力を築く。

事業概要

日時場所：2006年1月10日(火) 18時から20時 ホテルアソシア静岡ターミナル3F 「駿府の間」

参加人数：JCI関係者 (結果、458人)

事業総額：2,033,616円



担当委員長Q&A

01 旧LOMの考え方の違いから衝突もあったと思いますが、苦労された点をお教え下さい。
また、どのようにして委員会をまとめていったのでしょうか？

旧LOMの習慣や文化の違いに苦労しました。例えば、清水・駿河の委員会幹事は例会出欠の取りまとめをしないという習慣があった為、メンバーに参加を促す事に苦労しました。本委員会にはJCI在籍歴が長い予定者が多く、委員会をまとめてくれて助かりました。

02 新しい静岡青年会議所として初めての例会設営を行うことにより、巨大LOMとしての運営の大変さを痛感されたと思いますが、特に運営上苦労されたことは何ですか？

旧LOMの習慣、文化、歴史の違いを互いに理解し合い、1つにまとめていくことに苦労しました。また、合併直後の為、全てのメンバーの名前と顔が一致しませんでした。例会に関しては合併後初の例会ということで準備期間が少なく、また、旧LOMとの予算計画の手法等も違い、本当に苦労しました。

03 「若い我等」と「明日のために」と言えば玲吹奈さんですが、玲吹奈さんにとっての「若い我等」と「明日のために」とは何を意味するのでしょうか？
また、白鳥の衣装は自前ですか？また白鳥パフォーマンスでの失敗談等あればお教え下さい。

他人が喜ぶのを見るのが好きであるため、自己満足でやっています。白鳥の衣装は自前です。現在の衣装は5代目で、鈴木清仁君に譲りました。4代目は最近姿を見かけませんでしたが、片づけをしていたら出てきました。とうかい号見送りの時、白鳥を着て盛り上げようと思い、「名古屋JCIの声沢です!」と叫んだら、名古屋JCIの理事のお叱りを受けました。

04 例会管理委員会として全例会に携わり、LOMの活性化を重点とし活動されたと思いますが、合併後のLOMを活性化させる為に、どのような心掛けをされて行動されたのでしょうか？
委員会開催場所を、駿河、清水、静岡と均等になるよう配慮しました。



05 委員会メンバーの中、最年少の玲吹奈さんは、委員長として苦労したことはどのようなことですか？

若いからという言い訳をしないように心掛けました。また、懇親会等で自分が無茶をしたら予定者に抑制してもらおう事前に話しておりました。

06 合併後、遠方から来るメンバーも多数いることから参加率の低下が推測されますが、参加率向上の為に何か工夫されたことはありますか？

例会管理委員会ということもあり、自然と委員会出席率は高かったです。スリープメンバーに参加してもらう為、自宅や会社を訪問して参加を促しました。また、委員会懇親会後は毎回予定者を御自宅までお見送りしました。

07 例会前後での静岡JCIメンバーの感情はどのように変化していったと思われますか？
また、一般来賓、JCI関係者来賓からの評価はいかがでしたか？

例会では、清水・静岡・駿河の各青年会議所活動エリアの特産品を屋上で振る舞いました。食を通じて一体感が生まれたように感じました。またサブタイトル「新たな歴史への始まり」の通り、新生静岡JCIが始まった感覚を得る事が出来ました。御来賓の皆様のご印象を自分で評価するのは難しいのですが、良かったと信じています。全体的には良い話ししか入ってきませんが、駿河JCIのシニアが喜んでくれたのは非常に嬉しかったです。



取材全体としてのまとめ・感想

声沢委員長のお話を伺い、合併後間もない委員会をまとめていく為には、旧3LOMの文化や習慣を、お互いに理解し合い尊重することが大切であると感じました。

取材前後での特に気付いた点

スリープメンバーに参加してもらう為、自宅まで訪問したとの話を聞き、委員長として委員会を1つにまとめていく強い意志を感じました。また、予定者への対応(懇親会後自宅までお見送り)も、JCIの上下関係が明確に行動に表れており、見習う部分が多くあるように感じました。